

2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	気象データ小委員会		主 査 名：二宮 秀興 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)		委員長名： 主 査 名：宇田川光弘
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 分値気象データの整理, 気象観測データの収集と整理(2009～2011 年度) ・ 2001 年以降の拡張アメダス気象データの整理(2009～2011 年度) ・ 30 年拡張アメダス気象データの整理(2011～2012 年度) ・ 波長別日射量など気象要素の追加(2009～2012 年度) 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無： 二宮秀興(鹿児島大), 曾我和弘(鹿児島大), 赤坂裕(鹿児島高専), 荒井良延(鹿島技研), 井川憲男(大阪市大), 永村悦子(園田学園大), 永村一雄(大阪市大), 木下泰斗(日本板硝子), 斉藤孝一郎(YKK AP), 武田和大(鹿児島高専), 中山哲士(首都大学東京), 松本真一(秋田県大)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2010 年度予算	70,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. ー
講習会	1. ー 参加者数 名
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. ー 参加者数 名 2. ー 参加者数 名
大会研究集会	1. ー 参加者数 名
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. ー
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 2001～2007 年の拡張アメダス気象データの編集作業を完了。年度内に公開(予定) 2. 2009 年までの 55 地点の 1 分値気象データを収集し、フォーマットの統一、欠側の確認、日射量変換など基本的なデータ処理を完了した。 3. 全国 4 地点で波長別日射量の観測を継続し、データを蓄積している。
委員会活動の問題点・課題	1. 特になし

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2010 年度 小委員会活動 自己評価（気象データ小委員会）

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>気象データ委員会は、活動計画で3つテーマを挙げて研究に取り組んでいる。それぞれのテーマにおいて、ほぼ年次計画通りに研究を進めることができた。</p> <p>1. 2001年～2007年の拡張アメダス気象データの公開 欠測値の処理、要素補充、データ操作プログラムの機能強化を行い、当初の目標通り、2010年度中に公開できる見通しである。</p> <p>2. 1分値データの整理方法の検討(欠測補充、要素補充など)と編集作業 主要都市を含む55地点の1分値データを2009年までの10数年分を収集し、フォーマットの統一、欠側の確認、日射量変換など基本的なデータ処理を完了した。</p> <p>3. 気象ネットワークシステムの運用と収集したデータの考察 鹿児島県内で4中学校に気象観測計器を設置し、ネットワーク経由でデータ収集を行い、hp上で収録データを閲覧できるシステムを構築した。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。